

理工学部講演会：先進エネルギーナノ工学科

生駒 勝啓先生 講演会

日時：2017年5月12日(金) 15:10-16:40 (4限)

会場：Ⅶ号館1階 111教室

顧客サービスの視点から見た自動運転技術

【ご所属】 ダイハツ工業(株) 専務執行役員 CS(カスタマー・サービス)本部長

【ご講演概要】

自動運転の目的は『交通死亡事故を減らす』ということが原点である。内閣府の定義によれば、自動運転システムはレベル1から4の区分が設けられており、レベル1の代表が自動ブレーキによるぶつからない車であり、レベル4は『運転席でハンドルから手を離して読書ができるような全自動運転』となる。

昨年時点での乗用車の自動ブレーキ装着率は普通・小型乗用車が約11%に対して軽自動車は約54%と極めて高い。ダイハツは'12年に軽乗用車として業界初の自動ブレーキシステム『ダイハツ スマートアシスト』を導入して以来、継続的に普及促進に努め、装着率は約80%と業界全体から群を抜いて高い。

とは言え、このダイハツ車でさえ累計台数では高々100万台であり、市場で使われている全ダイハツ車からみると、約1割に過ぎない。ダイハツの顧客サービス分野では、死亡事故を低減するために、既に市場で使われている経年車へも取付可能な安全システムとして、積極的に導入して行きたいと考えている。

また同時に、子育て世代や高齢者を支援するシーンの中から、優先順位の高いものを取り上げ、その実用化に向けた技術開発に努めて行くが、その方向はレベル4が目指すシステムが全てを取り仕切る完全自動化ではない。

安全監視は人が担い、システムはこれに従うレベルに留めながら、人と車と社会の共生を目指したいと考えている。それは『日常生活の足としてスモールカーに、最適の先進安全装備を』というダイハツの願いであり、その根底にある『Light You Up (あなたの心に灯を点す)』という概念の具体化に他ならない。

***** 講演企画担当からPR *****
最先端の安全システムも開発者の考えや人柄までも反映されてしまいます。エンジンと車を知り尽くし、お客様と一番近いCS部門のトップとして車を哲学する生駒先生のお話はインパクト絶大！ご来場をお待ちしています。 先進 田中裕久

